

平成22年1月13日

安芸高田市の学校規模について (中間報告書)

(改訂4案)

安芸高田市学校規模適正化委員会

(素案)

**安芸高田市の学校規模について
(答申)**

平成22年1月

安芸高田市学校規模適正化委員会

目次

はじめに	1
1 安芸高田市が目指すべき教育目標	2
2 安芸高田市の学校教育の現状と課題	2
(1) 安芸高田市の学校教育の現状	2
(2) 小・中学校児童生徒数の現状と推移予測	5
(3) 学校施設の状況	9
(4) 安芸高田市の学校教育における課題	11
3 過小規模校と小規模校の良い点と課題	12
(1) 学習面	12
(2) 社会面・生活面	12
(3) クラブ・部活動面	13
(4) 学校運営面	13
4 望まれる安芸高田市での学校規模	15
(1) 学校の規模	15
(2) 安芸高田市において望まれる学校規模	16
5 望まれる学校規模に向けた取り組み	17

<A 委員案>

4 望まれる学校規模	19
(1) 望まれる学校規模を検討するための4つの視点	19
(2) 望まれる学校規模	20
5 安芸高田市における学校規模についての取り組み	21

資料編

諮問書	
安芸高田市学校規模適正化委員会設置要綱	
安芸高田市学校規模適正化委員会委員名簿	
委員会検討経過	
各種委員会提出資料	

はじめに

〔略〕

安芸高田市学校規模適正化委員会

委員長 林 孝

1 安芸高田市が目指すべき教育目標

安芸高田市は、教育基本プランとして「新教育戦略 21～みらいにかがやく安芸高田の教育～」を策定し、次の3つの教育目標をかかげている。

- ① 知識社会化・国際化・情報化する 21 世紀の社会的経済的要請に応える、主体的で自立した人材の形成
- ② 確かな学力を備えた、健康で心豊かな人材の形成
- ③ 郷土を愛し、地域の自然や文化を深く理解し、大切にす人材の育成

こうした教育目標に基づいて、学校教育では目指す学校像を「地域に開かれた特色ある学校」、目指す子ども像を「夢と志を持った活力ある子ども」と定めている。その実現の為に学校・家庭・地域社会の相互連携とともに学校間の横の連携、幼小中高といった縦の連携により、教育関係者が一体となった「協育」の推進を図っている。

2 安芸高田市の学校教育の現状と課題

(1) 安芸高田市の学校教育の現状

安芸高田市における小学校数は平成 14 年度旧高田郡までは 17 校であり、旧美土里町における、4 小学校の統合による美土里小学校の新規開校により平成 15 年度には 14 校となり、高田郡 6 町の合併により安芸高田市が誕生した平成 16 年には、旧吉田町における 1 小学校の統廃合により、13 校となり現在に至っている。中学校数は、旧町ごとに 1 校、計 6 校である。

小学校数			中学校数		
平成 14(2002)年	平成 15(2003)年	平成 16(2004)年	平成 21(2009)年	平成 21(2009)年	
吉田小	吉田小	→吉田小 (統廃合)	吉田小	吉田中	
丹比西小	丹比西小		可愛小		
可愛小	可愛小	可愛小	可愛小	八千代中	
郷野小	郷野小	郷野小	郷野小		
刈田小	刈田小	刈田小	刈田小	美土里中	
根野小	根野小	根野小	根野小		
横田小	→美土里小 (統廃合・新規)	美土里小	美土里小	美土里中	
本郷小					
北小					
生桑小					
川根小	川根小	川根小	川根小	高宮中	
来原小	来原小	来原小	来原小		
船佐小	船佐小	船佐小	船佐小	甲田中	
甲立小	甲立小	甲立小	甲立小		
小田小	小田小	小田小	小田小	甲田中	
小田東小	小田東小	小田東小	小田東小		
向原小	向原小	向原小	向原小	向原中	
計 17 校	計 14 校	計 13 校	計 13 校	計 6 校	

こうした学校数の変遷を受け、安芸高田市では学校教育における学力向上を支援するため、平成 20 年度から試行的に市内 3 小学校の 3・4 年生を対象に各 1 名の「学習補助員」を配置し、平成 21 年度からは全ての小学校に拡大配置を行っている。これにより、きめ細かな指導支援や補充的な指導、家庭における学習習慣の基盤づくりが進められている。また、新学習指導要領に基づき、英語力の向上と国際理解を深めるため、民間から 5 名の ALT (外国語指導助手) を保育所、幼稚園、小・中学校及び市民英会話教室に派遣し、国際化時代に対応した教育の充実強化に努めている。

これらの施策の実施により、平成 21 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査や平成 21 年度全国学力学習状況調査結果をみると、基礎的な学力定着がみられる。

平成 21 年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査

小学校 5 年	国語	算数	中学校 2 年	国語	数学	英語
広島県	75.0	79.8	広島県	75.0	69.7	65.2
安芸高田市	78.8	82.9	安芸高田市	80.4	74.9	71.9

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査

小学校 6 年	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	中学校 3 年	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全国	69.9	50.5	78.7	54.8	全国	77.0	74.5	62.7	56.9
広島県	72.9	53.8	81.3	56.6	広島県	77.6	74.8	62.9	56.2
安芸高田市	74.4	51.8	79.5	52.6	安芸高田市	78.8	77.8	62.7	56.6

また、本市においては地域に開かれた特色のある学校づくりを充実するため、地域人材の学習への活用、地域の自然や郷土芸能を取り入れた学習等、地域に根ざした特色のある教育活動が推進されている。こうした活動の推進によって、年齢の異なる子ども同士、世代を越えた地域住民との関わりの中で、社会性を向上させると同時に、地域とのふれあいによる郷土愛、地域への誇りを育むことにつながっている。

平成 20 年 7 月に政府が策定した教育振興基本計画では、今後 10 年間を通じて、目指すべき教育の姿が示されており、その中で「義務教育終了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる。」ことが謳われており、社会全体による子育ての必要性が述べられている。

また、学校の使命は全ての子どもたちに社会で自立して生きていく基礎を養うことであり、教育環境としては、人間関係の中から多様な考え方にふれ、お互いに切磋琢磨していく中で、協調性、社会性、規律性などを学び、人格形成がなされる環境が求められ、この環境を整備することが喫緊の最重要課題とされている。

学校での人間関係能力の向上にあわせて、教育の出発点である家庭や、子どもたちの安全で健やかな成長を見守る地域が、それぞれ役割分担を行い、学校・家庭・地域が一体となっ

子どもたちを育む仕組みづくりを行い、将来の明るい展望を描いていくことが期待されている。

こうした中、本市の各小・中学校では、次表のような平成 21 年度の教育目標をかかげており、学校、地域、家庭が協力してそれぞれの役割を担い、「協育」の推進を図ろうとしている。

① 市立小学校の教育目標

学校名	教育目標
吉田小	志をもち 夢に向かって歩む 子どもの育成
可愛小	『夢に向かってはげむ子』 －「のびる つながる ひろがる」可愛小教育の創造－
郷野小	夢に向かって 輝く子ども <気づき 考え 行動する>
刈田小	Challenge チャレンジ Cheer 元気いっぱい Clean ぴかぴか
根野小	「確かな学力を身につけた たくましい子どもの育成」
美土里小	ふるさとを愛し 心豊かで たくましく生きる 児童の育成
川根小	ひとりでもできる、みんなともできる「か・わ・ね」の子どもの育成
来原小	夢と志をもった元気な来原っ子の育成 ー自己肯定感の向上ー
船佐小	笑顔いっぱい 輝け 船佐っ子 Shine Smile Step
甲立小	夢を育み 心豊かに 輝いて生きる児童の育成
小田小	未来に生きる知・徳・体・心の力を持った子どもの育成
小田東小	『自ら学び、心豊かにたくましく生きるひがしっ子』
向原小	確かに 豊かに 健やかに

② 市立中学校の教育目標

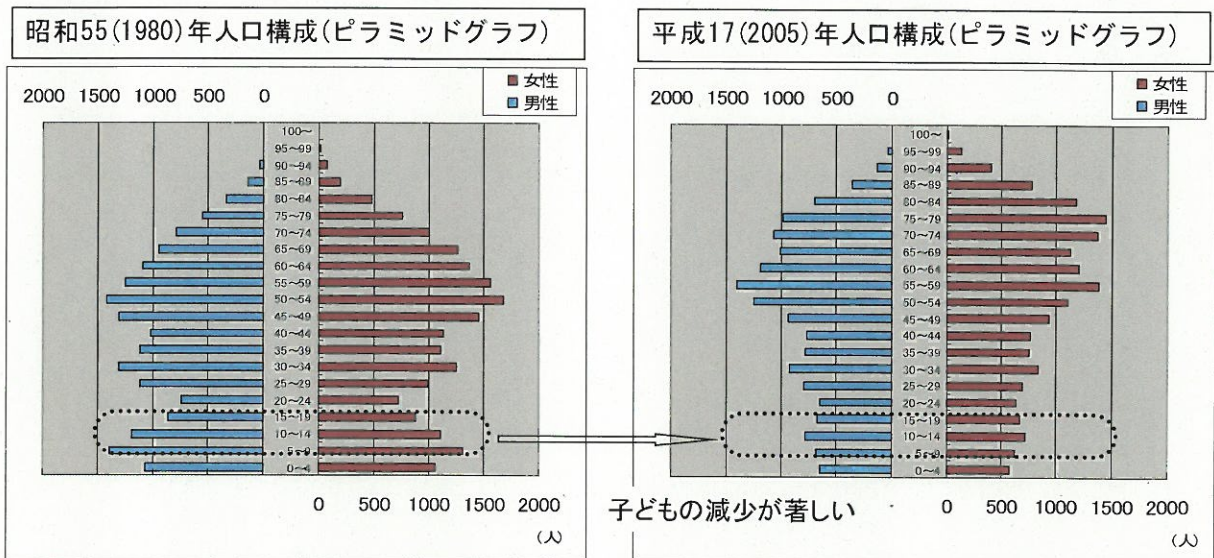
学校名	教育目標
吉田中	確かな学力と豊かな心を持ち、心身ともにたくましい生徒の育成
八千代中	「自ら学び、自信を持って物事に挑戦する生徒の育成」
美土里中	「ふるさとを愛し、学び続ける生徒の育成」
高宮中	自らの生き方に誇りを持ち、人間性豊かで、たくましく生きる生徒を育成する
甲田中	ふるさとを愛し、新しい時代を切り拓き、たくましく生きる生徒の育成
向原中	自ら学ぶ意欲をもち、たくましく生きぬく生徒の育成

(2) 小・中学校児童生徒数の現状と推移予測

ア 安芸高田市人口の現況と推移

安芸高田市における昭和55年から平成17年までの25年間の人口推移をみると、総人口は、昭和55年の約37,000人から、平成17年には約33,100人に減少している（減少率10.5%）。人口の減少に伴い小学校児童数は、昭和55年に3,020人であったものが平成17年には1,695人に減少しており（減少率43.9%）、中学校生徒数は、同じく1,291人が924人に減少（減少率28.4%）している。

安芸高田市の人口減少率は、過疎化と人口構造の偏りにより、特に子どもたち割合が下がり、少子化が急激に進んでいる。



イ 児童生徒数の現状と将来予測

平成21年5月1日現在の安芸高田市の各小・中学校の児童生徒数、学級数についてみると、小学校では吉田小学校が391人と最も多く、13学級が編制されている。また中学校では吉田中学校が305人で最も多く、9学級が編制されている。

このように吉田地区の学校が相対的に市内では規模が大きく、その他の地区の小・中学校は全般的に1学年1学級で編制されている。

○小学校の位置、児童数、普通学級数



○中学校の位置、生徒数、普通学級数



学校名	21年度児童数 (5月1日現在)	普通学級数
吉田小	391	13
可愛小	156	6
郷野小	74	6
刈田小	51	5
根野小	98	6
美土里小	167	6
川根小	23	3
来原小	65	6
船佐小	72	6
甲立小	76	6
小田小	70	6
小田東小	100	6
向原小	163	6
合計	1,506	81

学校名	21年度生徒数 (5月1日現在)	普通学級数
吉田中	305	9
八千代中	78	3
美土里中	73	3
高宮中	110	4
甲田中	145	6
向原中	99	3
合計	810	28

平成 20 年度の子供の数に基づき、平成 27 年度の児童生徒数を推計したところ、小学校児童数は 平成 20 年度 1,532 人、平成 27 年度 1,386 人となり、146 人減少することが予想される。また、中学校生徒数は 平成 20 年度 820 人、平成 27 年度 724 人となり、96 人の減少が予想される。このように平成 27 年度の児童数は平成 20 年度の 9 割となり、同様に、平成 27 年度の生徒数も平成 20 年度の約 9 割になることが想定される。このような傾向から、将来的には学校の小規模化は避けられないものと考えられる。

